



小 山 真 人

小山真人先生をおくる

小山真人先生が2024年3月末日をもって静岡大学を定年退職されることとなりました。小山先生は静岡県浜松市のご出身で、静岡大学理学部地球科学科を卒業後、同大学大学院理学研究科修士課程（地球科学専攻）を修了、そして東京大学大学院理学系研究科博士課程（地質学専攻）にて理学博士の学位を取得されました。静岡大学には1988年に理学部助手として赴任され、1991年からは教育学部に講師として移られました。2001年には教育学部教授に昇任され、以後、附属浜松小学校校長、防災総合センター副センター長、地域創造学環副学環長、静岡大学未来社会デザイン機構の副機構長等の要職を歴任されました。学会や学外の活動においても、日本火山学会理事、日本地震学会代議員、富士山ハザードマップ検討委員会委員、伊豆半島ジオパーク推進協議会の顧問および学術部会長、火山噴火予知連絡会委員等々、数多くの貢献をなされ、日本火山学会賞、日本災害情報学会廣井賞（学術的功績分野）、文部科学大臣表彰（科学技術賞／理解増進部門）や防災功労者内閣総理大臣表彰など多くの表彰を受けています。

小山先生は火山学や防災を中心に数多くの業績をあげられていますが、学生時代から培われたフィールドワークをベースに、国際深海掘削計画ODPへの乗船経験、火山噴火と防災の第一線に身をおきながらの社会還元や市民普及活動、そして高校時代から温めてこられた歴史学への思いが、化学反応を起こしながらつながっていかれた道のりを感じます。富士山ハザードマップ、伊豆半島のユネスコ世界ジオパーク認定、プラタモリへの出演等による市民への普及への流れは、防災面だけでなく自然がもたらす恵みと抱き合わせて、地球に向き合う次世代の自然観に大きな影響を与えたと強く思います。その過程は、同じ地球科学に携わり、23年間を同僚としてお供させていただいたものとして圧巻の一言につきます。

小山先生は、80名の卒論、10名の修論、そして2名の博士論文の指導をなされていますが、論文タイトルや公表された業績をみるにつけ、学生たちが小山先生とともに新しいことに挑戦していった歴史を感じます。自ら装置の開発や工夫を行う大切さ、タイミングを逃さない災害現場での調査のあり方（リアルタイムに地球現象を記録していく使命）、市民と向き合う自然科学のあり方やその厳しさ、そしてなにより分野を超越したジオサイエンスの広がり楽しさ等々、そこから多くのことを私たちは学んできたように思います。

ご退職を受けて後を継ぐ際になって、あらためて小山先生の存在の大きさを実感する次第ですが、小山先生の遺されたスピリットをさらに次世代に繋げられるよう研究や教育に向き合っていきます。大学から解き放たれた小山先生の今後の活躍に胸躍らせながら、私たちも自分の道を究めつつエールを送らせていただきます。

2024年3月

教育学部理科教育系列
系列代表 延原尊美

小山真人先生の略歴

本 籍 静岡県
生年月日 昭和34年2月20日

学 歴

昭和56年3月 静岡大学理学部地球科学科卒業
昭和58年3月 静岡大学大学院理学研究科修士課程（地球科学専攻）修了
昭和61年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程（地質学専攻）修了
昭和63年4月 東京大学地震研究所研究生

職 歴

昭和61年4月 日本学術振興会特別研究員（所属：東京工業大学理学部）
63年5月 静岡大学理学部助手
平成3年4月 静岡大学教育学部講師
4年4月 静岡大学教育学部助教授
8年4月 スイス国ヌーシャテル大学客員研究員（併任）（平成9年3月まで）
13年4月 静岡大学教育学部教授
27年4月 静岡大学学術院教育学領域教授
20年4月 静岡大学防災総合センター（併任）（令和6年3月まで）
28年4月 静岡大学地域創造学環（併任）（令和6年3月まで）
令和2年4月 静岡大学未来社会デザイン機構（併任）（令和6年3月まで）
6年3月 定年退職

学 位

理学博士（東京大学） 昭和61年3月29日
論文名 Tectonic history of the Izu Peninsula and adjacent areas based on paleomagnetism and stratigraphy

表 彰

平成19年 日本災害情報学会 第1回廣井賞（学術貢献分野）
平成20年 日本地図学会 学会賞論文賞
平成28年 富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念事業実行委員会 富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念功
労者表彰
平成30年 伊豆半島ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオパーク推進協議会功労者表彰
令和5年 文部科学省 科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞／理解増進部門）
令和5年 NPO法人日本火山学会 日本火山学会賞
令和5年 内閣官房 防災功労者内閣総理大臣表彰
令和5年 日本リスク学会2023年度グッドプラクティス賞（富士山火山広域避難計画検討委員会として団体
受賞）

学内における活動

- 平成13年4月 教育学部総合科学教室 代表（平成14年3月まで）
14年4月 教育学部学生・就職委員会 学生副委員長（平成15年3月まで）
15年4月 教育学部学生・就職委員会 学生委員長（平成16年3月まで）
16年4月 教育学部防災管理委員会 委員長（平成24年3月まで）
18年4月 教育学部総合科学教室 代表（平成19年3月まで）
18年4月 教育学部理科教育講座 代表（平成19年3月まで）
22年4月 教育学部学生・就職委員会 学生副委員長（平成23年3月まで）
22年4月 静岡大学防災総合センター副センター長（令和6年3月まで）
23年4月 教育学部学生・就職委員会 学生委員長（平成24年3月まで）
24年4月 静岡大学教育学部附属浜松小学校長（平成27年3月まで）
28年4月 教育学部総合科学教室 代表（平成29年3月まで）
28年4月 教育学部理科教育講座 代表（平成29年3月まで）
30年4月 地域創造学環教務委員会 委員長（平成31年3月まで）
31年4月 静岡大学地域創造学環 副学環長（令和2年3月まで）
31年4月 地域創造学環内部質保証委員会 委員長（令和2年3月まで）
令和2年4月 静岡大学未来社会デザイン機構 副機構長（令和6年3月まで）
5年4月 地域創造教育センター紀要委員会 委員長（令和6年3月まで）

所属学会

日本火山学会，日本地震学会，静岡県地学会，American Geophysical Union，東京地学協会，歴史地震研究会，日本災害情報学会，日本地球惑星科学連合，International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior

日本地質学会（平成13年3月まで），日本地球電気磁気学会（平成13年3月まで），日本歴史学会（平成25年3月まで），地域安全学会（平成24年3月まで），自然災害学会（平成26年3月まで），日本第四紀学会（平成26年3月まで），日本国際地図学会（平成26年3月まで），日本安全教育学会（平成29年3月まで）

学会・社会における活動

- 昭和63年6月 静岡県地学会 運営委員（平成7年6月まで）
平成2年 地震予知総合研究振興会「地震テクトニクスのモデル化及びM7級内陸地震の予知手法に関する研究」委員（平成4年3月まで）
6年4月 日本火山学会 評議員（平成10年3月まで）
6年4月 日本火山学会 庶務委員（平成8年3月まで）
6年4月 日本火山学会・日本地震学会主催「地震火山こどもサマースクール」実行委員（平成11年度・平成16年度・平成25年度実行委員長）（平成27年3月まで）
6年7月 動力炉・核燃料開発事業団火山検討部会 委員（平成11年3月まで）
11年5月 核燃料サイクル開発機構火山検討部会 委員（平成12年3月まで）
11年10月 伊東市史編さん委員会 専門委員（平成12年3月まで）
12年3月 静岡県溪流環境整備計画 検討委員（平成12年8月まで）
12年4月 浜松市産業廃棄物処理施設設置等調整委員会 委員（平成15年3月まで）

- 平成12年4月 静岡県新千年紀記念行事実施原案検討会 委員（平成12年12月まで）
- 12年4月 伊東市史編さん委員会 編集委員（令和3年3月まで）
- 12年4月 日本火山学会評議員（平成13年3月まで）
- 12年4月 日本火山学会 事業委員（平成14年3月まで）
- 12年7月 日本学術会議地震学研究連絡委員会地震予知小委員会 委員（平成15年7月まで）
- 12年8月 火山噴火予知連絡会 臨時委員（平成15年3月まで）
- 12年10月 日本地震学会 代議員（平成14年5月まで）
- 12年10月 歴史地震研究会 広報幹事（平成18年9月まで）
- 13年6月 日本地震学会将来検討委員会「地震学の知見を社会に活かすワーキンググループ」 委員（平成14年5月まで）
- 13年7月 文部科学省科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター専門調査員（平成16年3月まで）
- 13年7月 内閣府・国土交通省・総務省消防庁「富士山ハザードマップ検討委員会」 委員（平成17年3月まで）
- 13年11月 日本災害情報学会広報委員会ホームページ小委員会 委員（平成17年4月）
- 14年4月 国立歴史民俗博物館展示プロジェクト 委員（平成15年9月まで）
- 14年6月 日本地震学会将来検討委員（平成16年5月まで）
- 14年7月 国土地理院火山土地条件図「富士山」作成検討委員（平成15年3月まで）
- 14年10月 箱根火山防災マップ作成検討委員会 委員（平成16年3月まで）
- 14年11月 文部科学省デジタルコンテンツ「火山噴火シミュレータ」 監修者（平成15年3月まで）
- 15年2月 国土交通省「観光交流の推進による大都市圏周辺地域の活性化策検討委員会」 委員（平成15年5月まで）
- 15年4月 日本火山学会事業委員（平成18年3月まで）
- 15年5月 日本地震学会普及行事委員（平成27年3月まで）
- 15年11月 国土交通省国土地理院「リアルタイム災害情報システムの開発」プロジェクト分科会Ⅲ「地殻変動監視分科会」 委員（平成18年3月まで）
- 15年11月 消防科学総合センター「防災・危機管理e-カレッジ」 開発協力者（平成18年3月まで）
- 16年1月 国土交通省「火山地域における観光地安全対策計画検討委員会」 委員（平成16年3月まで）
- 16年2月 内閣府「災害教訓の継承に関する専門調査会小委員会」 委員（平成18年3月まで）
- 16年4月 日本火山学会2004年秋季大会 実行副委員長（平成17年3月まで）
- 16年6月 日本地震学会 代議員（平成19年5月まで）
- 16年7月 日本火山学会 理事・事業委員長（平成18年6月まで）
- 16年10月 内閣府「富士山火山広域防災検討会 富士山火山共生ワーキンググループ」 委員（平成17年9月まで）
- 17年3月 富士山火山砂防計画検討委員会 委員
- 17年4月 山梨県環境科学研究所 特別客員研究員（平成18年3月まで）
- 17年5月 日本災害情報学会学会誌編集委員会 委員（平成25年10月まで）
- 18年6月 静岡県教育委員会「富士山火山防災に係る指導教材検討委員会」 委員（平成20年3月まで）
- 18年10月 歴史地震研究会広報委員会 委員（平成24年9月まで）
- 18年11月 国土交通省 環富士山火山防災シンポジウム実行委員会 委員（平成19年11月まで）
- 20年3月 神奈川県温泉地学研究所の機能等に関する意見聴取会 委員（平成20年3月まで）

- 20年7月 日本放送協会静岡放送局視聴者懇談会 委員 (平成24年3月まで)
- 21年1月 伊豆東部火山群の火山防災対策検討会 委員 (副会長) (平成24年3月まで)
- 21年4月 日本災害情報学会2009年大会 実行委員長 (平成22年3月まで)
- 21年8月 火山噴火予知連絡会コア解析グループ 協力者 (平成23年3月まで)
- 21年10月 中部圏開発整備地方協議会 委員
- 21年12月 ジオパーク静岡県庁内検討会議 アドバイザー (平成23年3月まで)
- 22年2月 伊東市ジオパーク構想推進検討会議 アドバイザー (平成23年3月まで)
- 22年10月 気象庁「東海地震に関する情報の理解促進のための検討会」 委員 (平成23年3月まで)
- 23年4月 静岡県「伊豆半島の風力発電に関する有識者会議」 委員 (平成23年10月まで)
- 23年4月 伊豆半島ジオパーク推進協議会 顧問 (令和4年3月まで)
- 23年12月 火山噴火予知連絡会伊豆部会 委員 (令和2年3月まで)
- 24年3月 伊豆東部火山群防災協議会 委員
- 24年5月 静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会 委員
- 24年6月 富士山火山防災対策協議会 委員
- 25年4月 静岡新聞社「みんなのふじさんカルタ」 選定委員 (平成25年7月まで)
- 26年2月 静岡県史編さん 特別調査委員
- 27年4月 日本建築学会 火山噴火対策テック・フォース委員 (平成28年3月まで)
- 28年4月 日本建築学会 火山災害対策特別調査委員会委員 (平成30年3月まで)
- 28年7月 伊豆半島ジオパーク推進協議会 学術部会長 (平成30年3月まで)
- 28年11月 伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員 (副会長) (平成31年3月まで)
- 30年1月 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 委員 (令和4年3月まで)
- 30年7月 富士山火山防災対策協議会作業部会 委員
- 30年7月 富士山ハザードマップ (改定版) 検討委員会 委員 (副委員長) (令和3年3月まで)
- 令和2年2月 富士宮市史編さん委員会 委員
- 3年3月 史跡蜷塚遺跡保存活用計画検討会 委員 (令和4年3月まで)
- 3年5月 名勝伊豆西南海岸保存活用計画策定委員会 委員 (副委員長) (令和4年3月まで)
- 3年7月 日本火山学会 大会委員 (2022年秋季大会実行委員長) (令和5年6月まで)
- 3年9月 富士山火山広域避難計画検討委員会 委員 (副委員長) (令和5年3月まで)
- 4年1月 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画 (第2次) に関する外部評価委員会 委員 (令和4年9月まで)
- 4年4月 一般社団法人 美しい伊豆創造センター 理事 (ジオパーク委員会顧問)
- 4年10月 史跡蜷塚遺跡整備検討会 委員
- 5年4月 火山噴火予知連絡会 委員 (専門委員:東京地区)
- 5年4月 箱根山ハザードマップ検討部会 委員 (令和6年3月まで)

業績目録

著書

- 小山真人 (1992), 伊豆半島の火山—その生い立ち・現在・未来—. 静岡県, 28p.
- 地学団体研究会編 (1996), 新版地学事典. 平凡社, 東京, 1443p. (分担執筆)
- 日本第四紀学会第四紀露頭集編集委員会編 (1996), 第四紀露頭集—日本のテフラ. 日本第四紀学会, 352p. (分担執筆)
- 静岡県地学会編 (1996), 駿遠豆大地見てあるき. 黒船出版, 静岡市, 291p. (分担執筆)
- 小山真人 (1997), ヨーロッパ火山紀行. ちくま新書, 筑摩書房, 東京, 205p.
- 高橋正樹・小林哲夫編 (1998), フィールドガイド日本の火山 (2) 関東・甲信越の火山II, 築地書館, 東京, 158p. (分担執筆)
- 日本火山学会編 (2001), Q & A火山噴火. 講談社ブルーバックス, 講談社, 東京, 222p. (分担執筆)
- 小山真人編・著 (2002), 富士を知る. 集英社, 東京, 199p.
- 日本自然災害学会監修・土岐憲三編 (2002), 防災事典. 築地書館, 東京, 543p. (分担執筆)
- 小山真人 (2003), 富士山ふん火のひみつ. 文溪堂, 東京・岐阜, 24p.
- 読売新聞特別取材班・小山真人他 (2003), 活火山富士—大自然の恵みと災害. 中公新書ラクレ, 中央公論新社, 東京, 220p. (分担執筆)
- 藤岡換太郎・有馬 眞・平田大二編著 (2004), 伊豆・小笠原弧の衝突—海から生まれた神奈川. 有隣新書, 有隣堂, 横浜市, 248p. (分担執筆)
- 伊藤和明監修 (2004), 世界の富士山. 山海堂, 東京, 72p. (分担執筆)
- 小山真人監修 (2005), 活火山 富士山がわかる本 ~火山の基礎知識と富士山周辺のみどころ紹介~. 国土交通省富士砂防事務所, 富士宮市, 116p.
- 日本地質学会編 (2006), 日本地方地質誌 (4) 中部地方. 朝倉書店, 東京, 564p. (分担執筆)
- 小山真人 (2008), 富士山大噴火が迫っている! 最新科学が明かす噴火シナリオと災害規模. 技術評論社, 東京, 199p.
- 里村幹夫編 (2008), 地震防災. 学術図書出版社, 東京, 155p. (分担執筆)
- 下鶴大輔・荒牧重雄・井田喜明・中田節也編 (2008), 火山の事典 (第2版). 朝倉書店, 東京, 584p. (分担執筆)
- 井田喜明・谷口宏光編 (2009), 火山爆発に迫る—噴火メカニズムの解明と火山災害の軽減. 東京大学出版会, 東京, 240p. (分担執筆)
- 伊東市史編さん委員会編 (2009), 図説伊東の歴史. 伊東市教育委員会, 伊東市, 261p. (分担執筆)
- 小山真人 (2009), 火山がつくった伊東の風景—伊豆東部火山群 (北東部) の2万5000分の1地質図—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- 小山真人 (2009), 富士山噴火とハザードマップ—宝永噴火の16日間—. 古今書院, 東京, 174p.
- 小山真人 (2010), 伊豆の大地の物語. 静岡新聞社, 静岡市, 303p.
- 小山真人 (2010), 火山がつくった天城の風景—伊豆東部火山群 (南西部) のジオマップ—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- 全国地質調査業協会連合会・地質情報整備・活用機構編 (2010), 日本列島ジオサイト地質百選II. オーム社, 東京, 185p. (分担執筆)

- ひょうご震災記念21世紀研究機構災害対策全書編集企画委員会編 (2011), 災害対策全書1:災害概論. ぎょうせい, 東京, 487p. (分担執筆)
- 北原糸子・松浦律子・木村玲欧編 (2012), 日本歴史災害事典. 吉川弘文館, 東京, 838p. (分担執筆)
- 小山真人 (2012), 火山がつくった西伊豆の風景—伊豆半島南西部のジオマップ—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- 伊東市史編集委員会・伊東市教育委員会編 (2013), 伊東の自然と災害—伊東市史 別編. 伊東市, 436p. (分担執筆)
- 小山真人 (2013), 火山がつくった中伊豆の風景—伊豆半島のジオマップ4—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- 小山真人 (2013), 富士山—大自然への道案内. 岩波新書, 東京, 222p.
- 小山真人 (2014), 火山がつくった奥伊豆の風景—伊豆半島のジオマップ5—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- Koyama, M. (2015), *Geohistory of the Izu Peninsula*. The Shizuoka Shimbun, Shizuoka City, 199p.
- 小山真人 (2015), 火山がつくった伊東の風景 (第2版)—伊豆半島のジオマップ1—. 静岡新聞社, 静岡市, 変形A2判.
- 静岡大学教育学部附属浜松小学校著 (2016), 未来を拓き、生きる子どもを育む 資質・能力を中心に据えたカリキュラムの構想. 明治図書, 東京, 174p. (分担執筆)
- 小山真人 (2017), ドローンで迫る伊豆半島の衝突. 岩波書店, 東京, 147p.
- 伊東市史編集委員会・伊東市教育委員会編 (2018), 伊東市史・通史編「伊東の歴史 I 原始から戦国時代」. 伊東市, 524p. (分担執筆)
- 鳥海光弘ほか編 (2018), 図説 地球科学の事典. 朝倉書店, 東京, 248p. (分担執筆)
- 小山真人 (2019), 火山がつくった天城の風景 (第2版)—伊豆半島のジオマップ2—. 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 変形A2判.
- 静岡大学人文社会学部・地域創造学環編 (2019), 大学的静岡ガイド—こだわりの歩き方. 昭和堂, 京都市, 268p. (分担執筆)
- 岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編 (2020), 静岡の大規模自然災害の科学. 静岡新聞社, 静岡市, 255p. (分担執筆)
- 天野一男ほか監修 (2022), 地学基礎 (検定教科書). 実教出版, 東京, 199p. (分担執筆)
- 楠城一嘉編 (2022), 地震と火山と防災のはなし. 成山堂書店, 東京, 118p. (分担執筆)
- 小山真人編著 (2023), 富士宮の歴史 自然環境編. 富士宮市, 223p.

論文

- 小山真人・新妻信明 (1980), 伊豆半島新生界地層名辞典. 静岡大学地球科学研究報告, 5, 37-120.
- 北里 洋・新妻信明・小山真人・近藤康生・神谷隆宏 (1981), 駿河湾周辺後期更新世根古屋層・草薙層・国吉田層・古谷層の地磁気層序. 静岡大学地球科学研究報告, 6, 45-59.
- Koyama M. (1981), Paleomagnetism of the Cenozoic deposits in the north-eastern part of the Izu Peninsula, central Japan. *Rock Magnetism and Paleogeophysics*, 8, 1-8.
- 新妻信明・小山真人 (1981), 高感度自動無定位磁力計および3軸交番磁場消磁装置について. 静岡大学地球科学研究報告, 6, 35-44.
- 小山真人 (1982), 伊豆半島北東部中伊豆町—伊東市地域の層序. 静岡大学地球科学研究報告, 7, 61-85.

- 小山真人・新妻信明 (1982), 伊豆半島西部, 松崎地域の古地磁気. 国立科学博物館専報, **15**, 15–24.
- Koyama M. (1983), Paleomagnetic evidence for northward drift and local deformations of the Matsuzaki area, Izu Peninsula. *Rock Magnetism and Paleogeophysics*, **10**, 61–68.
- 小山真人・新妻信明 (1983), 駿河湾西岸後期更新世古谷層の古地磁気. 静岡大学地球科学研究報告, **8**, 39–48.
- 小山真人・新妻信明 (1983), リングコア型フラックスゲート回転磁力計および電流制御式3軸交番磁場消磁装置について. 静岡大学地球科学研究報告, **8**, 49–61.
- 早川由紀夫・荒牧重雄・白尾元理・小林哲夫・徳田安伸・津久井雅志・加藤 隆・高田 亮・小屋口剛博・小山真人・藤井敏嗣・大島 治・曾屋龍典・宇都浩三 (1984), 1983年10月3・4日三宅島火山噴出の降下火砕堆積物. 火山, **29**, 三宅島噴火特集号, S208–S220.
- Tandon S. K., Kumar R., Koyama M. & Niitsuma N. (1984), Magnetic polarity stratigraphy of the Upper Siwalik Subgroup, east of Chandigarh, Punjab Sub-Himalaya, India. *Journal of the Geological Society of India*, **25**, 45–55.
- 小山真人 (1986), 伊豆半島の地史と足柄・大磯地域の更新世. 月刊地球, **8**, 743–752.
- 小山真人・北里 洋・矢野 享 (1986), 古地磁気からみた大磯丘陵の構造運動. 月刊地球, **8**, 620–625.
- 早川由紀夫・荒牧重雄・高田 亮・浅岡伸之・金子隆之・津久井雅志・岸 智・山下 茂・野原 壮・平田由紀子・小山真人・白尾元理・川辺禎久 (1987), 伊豆大島1986年11月15–17日噴火によるスコリア・火山毛降下. 火山, **32**, 259–262.
- 小山真人・白尾元理・早川由紀夫 (1987), 三原山火口溶岩湖の成長過程～1986年伊豆大島噴火の第一段階. 月刊地球, **9**, 372–379.
- 津久井雅志・早川由紀夫・川辺禎久・小山真人・由井将雄・白尾元理 (1987), テレビ報道の解析による1986年伊豆大島噴火Phase 2の記述. 火山, **32**, 219–235.
- 小山真人 (1988), 伊豆半島の過去と現在—学術ボーリングから何がわかるか—. 陸上学術ボーリング候補地集I (荒牧重雄・新妻信明編), 陸上学術ボーリングワーキンググループ, 静岡, 1–32.
- 小山真人 (1988), 伊豆半島 —過去と現在—. 月刊地球, **10**, 262–270.
- 藤岡換太郎・Brian Taylor・西村 昭・小山真人・海保邦夫・田崎和江・Thomas Janecek・第126節乗船研究者一同 (1989), 伊豆・小笠原弧の横断掘削—ODP126節成果報告—. 地学雑誌, **98**, 886–910.
- Kikawa E., Koyama M. & Kinoshita H. (1989), Paleomagnetism of Quaternary volcanics in the Izu Peninsula and adjacent areas, Japan, and its tectonic significance. *Journal of Geomagnetism and Geoelectricity*, **41**, 175–201.
- Koyama M. (1989), Paleomagnetic studies in the South Fossa Magna and adjacent areas. *Modern Geology*, **14**, 69–86.
- Koyama M. & Kitazato H. (1989), Paleomagnetic evidence for Pleistocene clockwise rotation in the Oiso Hills: A possible record of interaction between the Philippine Sea plate and northeast Japan. In: Hillhouse J. W. (ed.) *Deep Structure and Past Kinematics of Accreted Terranes, Geophysical Monograph Series*, **50**, American Geophysical Union, Washington, 249–265.
- ODP Leg 126 Shipboard Scientific Party (1989), Arc volcanism and rifting. *Nature*, **342**, 18–20.
- ODP Leg 126 Shipboard Scientific Party (1989), ODP Leg 126 drills the Izu-Bonin arc. *Geotimes*, **34**, 36–38.
- Gill J., Torssander P., Lapierre H., Taylor R., Kaiho K., Koyama M., Kusakabe M., Aitchison J., Cisowski S., Dadey K., Fujioka K., Klaus A., Lovell M., Marsaglia K., Pezard P., Taylor B. & Tazaki K. (1990),

- Explosive deep water basalt in the Sumisu backarc rift. *Science*, **248**, 1214–1217.
- Lapierre H., Taylor B., Fujioka K., Janacek T., Gill J., Taylor R., Torssander P., Aitchinson J., Cisowski S., Colella A., Cooper P. A., Dadey K., Egeberg P. K., Firth J., Herman Y., Hiscott R., Isiminger-Kelso M., Kaiho K., Klaus A., Koyama M., Lovell M., Marsaglia K., Nishimura A., Pezard P., Rodolfo K. & Tazaki K. (1990), Incipient back-arc basin and fore-arc evolution in the Izu-Bonin arc (West Pacific). *Comptes Rendus de l'Académie des Sciences, Ser II*, **311**, 197–204.
- Pezard P., Lovell M. & ODP Leg 126 Shipboard Scientific Party (1990), Downhole images: Electrical scanning reveals the nature of subsurface oceanic crust. *EOS*, **71**, 709.
- Taylor B., Fujioka K. & ODP Leg 126 Shipboard Scientific Party (1990), *Proceedings of the Ocean Drilling Program, Initial Reports*, **126**, College Station, Texas (Ocean Drilling Program).
- 藤岡換太郎・ODP第126節乗船研究者一同 (1991), 伊豆・小笠原弧のリフトの形成と火山活動. 月刊地球, 号外**3**, 195–201.
- 小山真人 (1991), 古地磁気から見たフィリピン海の構造発達史. 地学雑誌, **100**, 628–641.
- Koyama M. & Umino S. (1991), Why does the Higashi-Izu monogenetic volcano group exist in the Izu Peninsula? Relationships between late Quaternary volcanism and tectonics in the northern tip of the Izu-Bonin arc. *Journal of Physics of the Earth*, **39**, 391–420.
- Tamura Y., Koyama M. & Fiske R. S. (1991), Paleomagnetic evidence for hot pyroclastic debris flow in the shallow submarine Shirahama Group (upper Miocene-Pliocene), Japan. *Journal of Geophysical Research*, **96**, 21779–21787.
- Umino S., Kato M. & Koyama M. (1991), Diversity of parent magmas of Higashi-Izu monogenetic volcano group. *Journal of Physics of the Earth*, **39**, 371–389.
- Cisowski S. M. & Koyama M. (1992), Detailed record of the Brunhes/Matuyama polarity reversal in high sedimentation rate marine sediments from the Izu-Bonin arc. *Proceedings of the Ocean Drilling Program, Scientific Results*, **126**, College Station, Texas (Ocean Drilling Program), 341–352.
- Fujioka K., Matsuo Y., Nishimura A., Koyama M. & Rodolfo K. (1992), Tephra of the Izu-Bonin forearc (Sites 787, 792, and 793). *Proceedings of the Ocean Drilling Program, Scientific Results*, **126**, College Station, Texas (Ocean Drilling Program), 47–74.
- 藤岡換太郎・西村 昭・小山真人・海保邦夫・田崎和江 (1992), 伊豆・小笠原弧の横断掘削—その2—. 月刊地球, 号外**6**, 195–200.
- 早川由紀夫・小山真人 (1992), 東伊豆単成火山地域の噴火史1: 0~32ka. 火山, **37**, 167–181.
- 小山真人 (1992), フィリピン海プレート北縁で起きる火山噴火・地震の同時発生の可能性. 月刊地球, 号外**5**, 137–144.
- 小山真人 (1992), 背弧リフト深海底における爆発的溶岩噴泉の発見—ODP Leg126の古地磁気学的成果—. 月刊地球, 号外**6**, 201–205.
- Koyama M., Cisowski S. M. & Gill J. B. (1992), Paleomagnetic estimate of emplacement mechanisms of deep basaltic volcanoclastic rocks in the Sumisu Rift, Izu-Bonin arc. *Proceedings of the Ocean Drilling Program, Scientific Results*, **126**, College Station, Texas (Ocean Drilling Program), 371–379.
- Koyama M., Cisowski S. M. & Pezard P. (1992), Paleomagnetic evidence for northward drift and clockwise rotation of the Izu-Bonin arc since the early Oligocene. *Proceedings of the Ocean Drilling Program, Scientific Results*, **126**, College Station, Texas (Ocean Drilling Program), 353–370.

- 小山真人・新妻信明・狩野謙一・高木圭介・内村竜一・吉田智治・唐沢 譲・田邊裕高 (1992), 駿河トラフ伊豆側斜面の地質とテクトニクス—「しんかい2000」第579潜航の成果—, 海洋科学技術センター試験研究報告, 第8回「しんかい」研究シンポジウム特集, 145-161.
- 小山真人 (1993), 伊豆半島の火山とテクトニクス, 科学, **63**, 312-321.
- 小山真人 (1993), 噴火堆積物と古記録からみた延暦19~21年(800~802年)富士山噴火(予報)—古代東海道は富士山の北麓を通過していたか?—, 歴史地震, **9**, 9-34.
- 高木圭介・青池 寛・小山真人 (1993), 15~10Ma前後の伊豆・小笠原弧北端部で何が起こったか, 地学雑誌, **102**, 252-263.
- 小山真人 (1994), ルールベースを用いた地質学研究・教育支援エキスパートシステム—火山砕屑岩の堆積様式推定を例として—, 情報地質, **5**, 85-92.
- 小山真人 (1994), 伊豆・小笠原火山弧北端部における現在および第四紀後期のテクトニクス, 地学雑誌, **103**, 576-590.
- 小山真人・小木田周三・大石善雄・庄司速人・石堂昭夫 (1994), 地質体・鉱床の形成論の知識構造と形成プロセス推定法—ウラン鉱床とそれを胚胎する地質体を例にとって—, 情報地質, **5**, 55-69.
- 小山真人・吉田 浩 (1994), 噴出量の累積変化からみた火山の噴火史と地殻応力場, 火山, **39**, 177-190.
- 新妻信明・小山真人 (1994), 全自動古地磁気測定装置, 静岡大学地球科学研究報告, **21**, 11-19.
- 小竹信宏・小山真人・亀尾浩司 (1995), 房総半島南端地域に分布する千倉・豊房層群(鮮新—更新統)の古地磁気層序および微化石層序, 地質学雑誌, **101**, 515-531.
- 小山真人 (1995), 西相模湾断裂の再検討と相模湾北西部の地震テクトニクス, 地学雑誌, **104**, 45-68.
- 小山真人 (1995), ロームの成因とレスクロノメトリー—早川論文と鈴木論文へのコメント—, 火山, **40**, 214-217.
- 小山真人・早川由紀夫・新井房夫 (1995), 東伊豆単成火山地域の噴火史2: 主として32ka以前の火山について, 火山, **40**, 191-209.
- 小山真人・白尾元理 (1995), 教材としての惑星画像の利用法—月面写真をもちいた学生実習ガイド—, 惑星火山学入門(藤井直之・白尾元理・小森長生編), 日本火山学会月・惑星火山ワーキンググループ, 151-166.
- 小林 淳・小山真人 (1996), 箱根火山西麓~南麓地域のテフラ層序と火山噴火史, 地学雑誌, **105**, 431-447.
- 小山真人・早川由紀夫 (1996), 伊豆大島火山カルデラ形成以降の噴火史, 地学雑誌, **105**, 133-162.
- Nagasawa C., Koyama M. & Sasaki S. (1996), Mapping of crustal stress field on Venus from surface geometry of dike swarms: temporal change of stress field in Beta-Atla-Themis Regio. In: Mizutani H.(ed.), *Proceedings of the 29th ISAS Lunar and Planetary Symposium*, Institute of Space and Astronautical Science, Sagamihara, 71-74.
- 早川由紀夫・小山真人 (1997), 1582年以前の火山噴火の日付をいかに記述するか—グレゴリオ暦かユリウス暦か?—, 地学雑誌, **106**, 102-104.
- Nagasawa C., Koyama M. & Sasaki S. (1997), Change of stress field in time: Beta-Atla-Themis region and Aphrodite Terra, Venus. In: Mizutani H. & Kato M. (eds.), *Proceedings of the 30th ISAS Lunar and Planetary Symposium*, Institute of Space and Astronautical Science, Sagamihara, 47-50.
- 早川由紀夫・小山真人 (1998), 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日—十和田湖と白頭山—, 火山, **43**, 403-407.
- 小山真人 (1998), 歴史時代の富士山噴火史の再検討, 火山, **43**, 323-347.

- 小山真人 (1998), 噴火堆積物と古記録からみた延暦十九~二十一年 (800~802) 富士山噴火—古代東海道は富士山の北麓を通過していたか?—. 火山, **43**, 349-371.
- 小山真人 (1998), 地震学や火山学は, なぜ防災・減災に役立たないのか—低頻度の大規模自然災害に対して研究者がすべきこと. 1998年地域安全学会論文報告集, **8**, 40-45.
- Nagasawa C., Sasaki S. & Koyama M. (1998), Change of stress field in Beta-Atla-Themis region on Venus, estimated from surface geometry of dike swarms, lava stratigraphy, and crater density. *Geophysical Research Letters*, **25**, 4429-4432.
- 都司嘉宣・小山真人・上田和枝 (1998), 地震予知計画の中での歴史地震研究の役割. 月刊地球, 号外**20**, 142-147.
- 第四紀火山カタログ委員会 (1999), 日本の第四紀火山カタログ. 火山, **44**, 285-289.
- 小山真人 (1999), 文献史料にもとづく歴史時代の伊豆半島東方沖群発地震史と東伊豆単成火山地域の火山活動史. 第四紀研究, **38**, 435-446.
- 小山真人 (1999), 日本の史料地震学研究の問題点と展望—一次世代の地震史研究に向けて—. 地学雑誌, **108**, 346-369.
- 小山真人 (1999), 歴史時代の富士山噴火史の再検討—とくに近隣の巨大地震との関連性について—. 平成11年度自然災害総合研究班中部地区シンポジウム発表論文集, 自然災害総合研究班中部地区部会, 5-8.
- 小山真人 (1999), 地震学や火山学は, なぜ防災・減災に十分役立たないのか—低頻度大規模自然災害に対する“文化”を構築しよう—. 科学, **69**, 256-264.
- 小山真人 (1999), 伊豆・小笠原弧の火山. 日本の第四紀火山カタログ (第四紀火山カタログ委員会編). 日本火山学会, CD-ROM. (分担執筆)
- 小山真人・早川由紀夫 (1999), はじめての史料地震・火山学. 地学雑誌, **108**, 489-494.
- 生島佳代子・小山真人 (1999), 飛鳥~平安時代前期の自然災害記録媒体としての六国史の解析—概要および月別情報量一覧—. 歴史地震, **15**, 1-23.
- 生島佳代子・小山真人 (1999), 飛鳥~平安時代前期の自然災害記録媒体としての六国史の解析. 平成11年度自然災害総合研究班中部地区シンポジウム発表論文集, 自然災害総合研究班中部地区部会, 1-4.
- 小山真人 (2000), 史料にもとづく富士山の火山活動史と災害予測. 月刊地球, **22**, 558-563.
- 田中敏貴・小山真人 (2000), 近世初期の自然災害記録媒体としての『当代記』の特性分析. 歴史地震, **16**, 156-162.
- 小山真人 (2001), 噴火想定からみた日本の火山ハザードマップ. 月刊地球, **23**, 811-820.
- 小山真人・西山昭仁・井上公夫・今村隆正・花岡正明 (2001), 富士山宝永噴火の推移を記録する良質史料『伊東志摩守日記』. 歴史地震, **17**, 80-88.
- 早川由紀夫・小山真人・佐々木達哉・山縣耕太郎・林 信太郎・市川八州夫 (2002), 日本全土を対象にした火山被災年代マップの作成. 月刊地球, 号外**39**, 210-216.
- 林 豊・小山真人 (2002), 宝永四年富士山噴火に先立って発生した地震の規模の推定. 歴史地震, **18**, 127-132.
- 角谷ひとみ・井上公夫・小山真人・富田陽子 (2002), 富士山宝永噴火 (1707) 後の土砂災害. 歴史地震, **18**, 133-147.
- 小山真人 (2002), 富士山貞観噴火・宝永噴火の推移. 消防科学と情報, **70**, 23-28.
- 小山真人 (2002), 史料にもとづく富士山宝永噴火の推移. 月刊地球, **24**, 609-616.

- 小山真人 (2002), 2000年8月の三宅島に関する火山活動評価・情報伝達上の問題点. 噴火予知連会報, 78, 125-133.
- 小山真人 (2002), 富士山の火山としての特性—とくに火山活動と地震の連動について—. 富士山の自然と社会. 国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所, 393p. (分担執筆)
- 小山真人 (2002), 火山で生じる異常現象と近隣地域で起きる大地震の関連性—その事例とメカニズムにかんするレビュー—. 地学雑誌, 111, 222-232.
- 小山真人・羽根優子 (2002), 火山としての富士山に対する住民意識 (2000年11~12月調査結果). 噴火予知連会報, 79, 103-108.
- 宇井忠英・池田保夫・小山真人・鎌田桂子・岡田 弘・新井田清信 (2002), 有珠山2000年噴火で発生した火砕サージ. 火山, 47, 333-337.
- 宇井忠英・中川光弘・稲葉千秋・吉本充宏・総合観測班地質グループ (2002), 有珠山2000年噴火の推移. 火山, 47, 105-117.
- 小山真人 (2003), 現代社会は破局災害とどう向き合えばよいのか. 月刊地球, 25, 821-824.
- 小山真人 (2003), 火山学の知見を防災・減災に役立てるために今何が必要か. 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」平成14年度研究成果報告書, 311-317.
- 小山真人・西山昭仁・井上公夫・角谷ひとみ・富田陽子 (2003), 富士山宝永噴火の降灰域縁辺における状況推移を記録する良質史料『伊能景利日記』と伊能景利採取標本. 歴史地震, 19, 38-46.
- 小山真人・坂本珠紀 (2003), 火山としての富士山に対する行政と住民の意識 (2002~03年調査結果). 地質ニュース, 591, 19-23.
- 小山真人 (2004), 火山ハザードマップの役割と活用のポイント. 河川, 694, 25-29.
- 小山真人・坂本珠紀 (2004), 富士山ハザードマップに対する地元自治体防災担当者の意識. 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」平成15年度研究成果報告書, 372-398.
- 小山真人・坂本珠紀 (2004), 富士山ハザードマップに対する地元自治体防災担当者の意識. 月刊地球, 号外48, 175-185.
- 鈴木雄介・高田 亮・小山真人 (2004), トレンチ調査による新期富士火山北西山腹の噴火史. 月刊地球, 号外48, 118-123.
- 早川由紀夫・小山真人・前嶋美紀 (2005), 史料に書かれた日付の西暦換算と表記法. 月刊地球, 27, 848-852.
- 小山真人 (2005), 火山に関する知識・情報の伝達と普及—減災の視点でみた現状と課題—. 火山, 50, S289-S317.
- 小山真人 (2005), 火山のハザードマップを用いた授業. 社会科教育, 42, 9.
- 小山真人 (2005), 富士山のハザードマップ—その作成経緯・特長・課題—. 月刊地球, 27, 346-352.
- 小山真人・前嶋美紀 (2005), 火山危機に直面する専門家のための合議・意思決定支援システム. 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」平成16年度研究成果報告書, 407-416.
- 小山真人 (2006), 地震・火山の教材開発と知識普及に関する最近の実践的取組み. 消防防災, 15, 35-39.
- 小山真人・宮地直道 (2006), 1707富士山宝永噴火. 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書, 中央防災会議, 7-22, 29-56, 64-69, 168-170.
- 小山真人・柴田ふみ・吉川肇子 (2006), 住民のイメージ調査にもとづく火山防災用語選定の試み. 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」平成17年度研究成果報告書, 372-382.
- 村越 真・小山真人 (2006), 火山のハザードマップからの情報読み取りとそれに対する表現方法の効果. 災害情報, 4, 40-49.

- 生島佳代子・小山真人 (2006), 自然現象記録媒体としての中世史料『吾妻鏡』の特性分析. 歴史地震, 21, 111-120.
- 吉川肇子・中橋徹也・伊藤英之・小山真人・林 信太郎・前嶋美紀 (2006), 危機管理シナリオ・シミュレーションの開発. 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」平成17年度研究成果報告書, 383-386.
- 小山真人 (2007), 富士山の歴史噴火総覧. 富士火山 (荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編), 山梨県環境科学研究所, 119-136.
- 小山真人・小川聡美・西山昭仁 (2007), 西方遠隔地 (三重県伊勢, 長野県下伊那) で書かれた1707年富士山宝永噴火の目撃記録. 歴史地震, 22, 61-83.
- 宮地直道・小山真人 (2007), 富士火山1707年噴火 (宝永噴火) についての最近の研究成果. 富士火山 (荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編), 山梨県環境科学研究所, 339-348.
- 村越 真・小山真人 (2007), 火山ハザードマップの読み取りに対するドリルマップ提示の効果. 地図, 45, 1-11.
- 村越 真・小山真人 (2008), 利用マニュアルとドリルマップの提示が火山防災マップからの読み取り課題に与える影響. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 15, 109-115.
- 村越 真・小山真人 (2008), 火山ハザードマップの読み取りに対するドリルマップ提示の効果. 測量, 58, 10-12.
- 村越 真・小山真人・石原寛子・鈴木吉彦・岩崎大輔・岩田孝仁 (2008), 緊急地震速報は本当に住民の退避行動を促進するか? 一起震車を用いて東海地震を想定した検証実験一. 災害情報, 6, 73-78.
- 遠藤 恵・小山真人 (2009), 自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析. 歴史地震, 24, 121-128.
- 村越 真・小山真人・岩崎大輔・岩田孝仁 (2009), 緊急地震速報と被害に関する教示が退避行動に与える影響. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 17, 75-80.
- 小山真人・村越 真・上西智紀 (2011), ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付き—伊豆半島在住の高校生に対するケーススタディー—. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 19, 11-18.
- 村越 真・小山真人・大石勝博・岩田孝仁 (2011), 退避タイミングの教示とイメージトレーニングの地震時退避行動への効果: 緊急地震速報の有無による比較. 災害情報, 9, 94-102.
- 村越 真・小山真人・上西智紀 (2011), ジオパークでの地形・地質学的特徴把握を促進する地図表現の検討—赤色立体地図を事例として—. 地図, 49, 17-27.
- 小山真人 (2012), 富士山宝永噴火とそれに伴う降灰災害. 武蔵野, 87, 35-43.
- 小山真人 (2012), 静岡県周辺で詳細放射線量マップを描く意義. 科学, 82, 828-831.
- 村越 真・小山真人・河合美保・鈴木雄介 (2012), ジオパークのガイド養成講座を通じた受講者の知識と意識の変容. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 20, 195-202.
- 延原尊美・小山真人 (2012), 駿河トラフ軸部の石花海ゴージ伊豆側斜面から採集された貝化石: 「しんかい2000」第579潜航の追補報告. 静岡大学地球科学研究報告, 39, 1-6.
- Japan Meteorological Agency and Volcanological Society of Japan (2013), *National Catalogue of the Active Volcanoes in Japan (4th edition)*. DVD-ROM. (分担執筆)
- 伊藤英之・小山真人・村越 真・吉川肇子 (2014), 誤報 (いわゆる「オオカミ少年効果」) を考慮した災害情報の最適化に関する研究. 平成26年度砂防地すべり技術研究成果報告会講演論文集, 95-111.

- Kitamura A., Koyama M., Itasaka K., Miyairi Y. & Mori H. (2014), Abrupt Late Holocene uplifts of the southern Izu Peninsula, central Japan: Evidence from emerged marine sessile assemblages. *Island Arc*, **23**, 51–61.
- 小山真人 (2014), 低頻度巨大災害のリスクを定量評価する – 合理的な「想定外」対策へ向けて. *科学*, **84**, 191–194.
- 小山真人 (2014), 富士山には世界自然遺産の価値がないのか. *地質と調査*, **140**, 1–10.
- 小山真人 (2014), 富士山での突発的噴火の可能性と登山者対策. *科学*, **84**, 1236–1242.
- Notsu K., Sohrin R., Wada H., Tsuboi T., Sumino H., Mori T., Tsunogai U., Hernandez P. A., Suzuki Y., Ikuta R., Oorui K., Koyama M., Masuda T. & Fujii N. (2014), Leakage of magmatic-hydrothermal volatiles from a crater bottom formed by a submarine eruption in 1989 at Teishi Knoll, Japan. *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, **270**, 90–98.
- 尾内隆之・小山真人・平川秀幸・山岡耕春 (2014), “安全宣言” 事例から考える科学者の役割 (前編). *科学*, **84**, 177–184.
- 尾内隆之・小山真人・平川秀幸・山岡耕春 (2014), “安全宣言” 事例から考える科学者の役割 (後編). *科学*, **84**, 270–278.
- 早川由紀夫・萩原佐知子・野村正弘・小山真人 (2015), 読めて使える美しい火山地質図を安価で市場に出す. *地図*, **53**, 57–65.
- 小山真人 (2015), 原子力発電所の「新規制基準」とその適合性審査における火山影響評価の問題点. *科学*, **85**, 182–193.
- 小山真人・鈴木雄介 (2016), 伊豆東部火山群 (東伊豆単成火山地域) の分布・噴火史の再検討. *土と岩*, **64**, 12–23.
- 村越 真・小山真人・河合美保 (2016), 地震に対する抜き打ち避難訓練は臨機応変な避難行動を促進するか? *安全教育学研究*, **16**, 3–13.
- 小山真人 (2017), 箱根山の火山防災と2015年噴火. *科学*, **87**, 24–36.
- 小山真人 (2018), 伊豆半島の地域資源とジオパーク ジオパークは地域の未来を変えるか? *静岡大学地域課題解決支援プロジェクト成果報告書*, **3**, 78–84.
- 小山真人・村越 真 (2018), 箱根山の火山活動シナリオ試算とそこに付された噴火確率に対する危険度認知. *火山噴火予知連絡会報*, **121**, 130–137.
- 小山真人 (2019), 低頻度巨大災害のリスク評価はいかにあるべきか. *土木学会誌*, **104**, 14–17.
- 小山真人 (2019), 富士山の山体崩壊—想定外の災害にしないために. *月刊地理*, **64**, 40–47.
- 小山真人 (2019), 地球科学者がプラタモリを案内して考えたこと. *月刊地理*, **64**, 10–15.
- 小山真人 (2020), 火山学の知見が活かされない原発の規制基準. *学術の動向*, **25**, 54–57.
- 村越 真・満下健太・小山真人 (2020), 自然災害リスクはハザードマップから適切に読み取れているか? *地図リテラシーの視点からの検討*. *地図*, **58**, 1–16.
- 小山真人 (2022), 伊豆半島ジオパークを軸にした取り組みと今後の展開. *静岡大学地域課題解決支援プロジェクト成果報告書*, **7**, 53–61.
- 小山真人 (2022), 改定された富士山のハザードマップ 読み解き方と活用のポイント. *季刊企業経営*, **158**, 32–35.
- 小山真人・宮本成悟・長原翔伍・鈴木雄介 (2022), 世界初の多方向3次元透視が明らかにした大室山の内部構造. *科学*, **92**, 637–640.

- Miyamoto S., Nagahara S., Morishima K., Nakano T., Koyama M. & Suzuki Y. (2022), A muographic study of a scoria cone from 11 directions using nuclear emulsion cloud chambers. *Geoscientific Instrumentation, Methods and Data Systems*, **11**, 127–147.
- Nagahara S., Miyamoto S., Morishima K., Nakano T., Koyama M. & Suzuki Y. (2022), Three-dimensional density tomography determined from multi-directional muography of the Omuroyama scoria cone, Higashi-Izu monogenetic volcano field, Japan. *Bulletin of Volcanology*, **84**, 94.
- 小山真人 (2023), 2022年台風15号による静岡県中部巴川下流域の河川氾濫—現地調査と航空レーザー計測点群による分析—。静岡大学地球科学研究報告, **50**, 115–142.
- 小山真人 (2023), 近接空撮画像と航空レーザー計測点群を用いた富士山1707年宝永噴火の火口近傍堆積物の層序と形成過程。富士山学, **3**, 23–35.
- Mitsushita K., Murakoshi S. & Koyama M. (2023), How are various natural disasters cognitively represented?: a psychometric study of natural disaster risk perception applying three-mode principal component analysis. *Natural Hazards*, **116**, 977–1000.
- 村越 真・満下健太・小山真人 (2023), ハザードマップはハザード理解に資するか：地形図との対比と自然災害と地形の関係についての学習の効果。測量, **73**, 16–19.
- Shishikura M., Namegaya Y., Kaneko H. & Koyama M. (2023), Late Holocene tectonics inferred from emerged shoreline features in Higashi-Izu monogenetic volcano field, Central Japan. *Tectonophysics*, **864**, 229985.

翻 訳

- マウロ・ロッシ, パオロ・パパーレ, ルカ・ルピ, マルコ・ストッパート著, 日本火山の会訳 (2008), 世界の火山百科図鑑. 椋風舎, 東京, 336p. (分担翻訳)

